

Sakai 5.18



Mino 5.20



Tokyo 5.25



17th  TOUR OF JAPAN

2014.5/18 SUN ▶ 25 SUN

報告書
R E P O R T

Minamishinshu 5.21



Izu 5.24



Fujisan 5.23



RING!RING!
プロジェクト

この報告書は、競輪の補助により作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>



17th TOUR OF JAPAN 2014.5/18 SUN ▶ 25 SUN 報告書

大会実施概要、大会日程、大会役員	02	リザルト	18
ツアー・オブ・ジャパンとは	03	今中大介の総括	19
参加チームリスト	04	広報ツール	20
第1ステージ【堺】競技結果	06	パブリシティ【テレビ】	21
第2ステージ【美濃】競技結果	08	パブリシティ【新聞・WEB・雑誌】	22
第3ステージ【南信州】競技結果	10	会場風景・スポンサーメリット他	26
第4ステージ【富士山】競技結果	12		
第5ステージ【伊豆】競技結果	14		
第6ステージ【東京】競技結果	16		

Outline of the race・実施概要

◎名称	UCI公認国際自転車ロードレース 「17th TOUR OF JAPAN」 (アジアツアー・レースクラス2.1)	◎開催日程	2014年5月18日(日)～25日(日)
◎主催	自転車月間推進協議会	5/18(日)【堺】-第1ステージ	2.65km 13:35 (個人タイムトライアル) 大仙公園周回コース
◎主管	TOUR OF JAPAN組織委員会 (事務局：(一財)日本自転車普及協会)	5/19(月)	(移動日)
◎競技主管	(公財)日本自転車競技連盟	5/20(火)【美濃】-第2ステージ	160.7km 9:15 旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース (パレード4.0km+11.6km+(21.3km×7周))
◎後援	内閣府／総務省／文部科学省／経済産業省／ 国土交通省／消費者庁／東京都／大阪府／ (公財)JKA／朝日新聞社／日刊スポーツ新聞社	5/21(水)【南信州】-第3ステージ	148.0km 8:45 飯田駅→下久堅周回コース→松尾総合運動場前 (パレード7.3km+(12.2km×12周)+1.6km)
◎協力	堺市／岐阜県／美濃市／飯田市／飯田観光協会／ 小山町(静岡県駿東郡)／伊豆市／ (一財)日本サイクルスポーツセンター／ 東京港埠頭(株)	5/22(木)	(移動日)
◎特別協賛	三菱電機(株)／SPEEDチャンネル／ 日本トーター(株)／富士重工業(株)	5/23(金)【富士山】-第4ステージ	11.4km 10:00 須走商店街→(ヒルクライム)ふじあざみライン入口→ 富士山須走口5合目 (パレード2.9km+11.4km)
◎協賛	(株)Champion System Japan／THULE／ヤマハ発動機(株)／ Rapha Japan／ダイドードリンコ(株)／(株)シマノ／ (一社)自転車協会／アメアスポーツジャパン(株)／ (株)ミヤタサイクル／パナソニックサイクルテック(株)／ (株)マトリックス／岡三証券(株)／(株)パールイズミ／ (株)ゼンリン／(株)NIPPO／ブリヂストンサイクル(株)／ 東京サンエス(株)／(株)インターマックス／ (株)オージーケーカブト／東京海上日動火災保険(株)／ (株)深谷産業／芙蓉総合リース(株)／みずほ銀行	5/24(土)【伊豆】-第5ステージ	146.4km 9:30 日本サイクルスポーツセンター周回コース (12.2km×12周)
		5/25(日)【東京】-第6ステージ	112.7km 11:00 日比谷シティ前→大井埠頭周回コース (パレード1.2km+14.7km+(7.0km×14周)) 全走行距離：581.85km

Officials・大会役員

会長	TheChairman 石黒 克巳 ISHIGURO KATSUMI	副委員長	Committee Vice-Chairman 斧 隆夫 ONO TAKAO 松倉 信裕 MATSUKURA NOBUHIRO	中澤 見山 NAKAZAWA KENZAN 小鷹狩 幸一 KODAKARI KOUICHI 諸星 利雄 MOROBOSHI TOSHIO 榎 正人 ENOKI MASATO 早坂 和弘 HAYASAKA KAZUHIRO 黒川 剛 KUROKAWA TAKESHI 飯田 太文 IIDA TAMON
副会長	VicePresidents 渡辺 恵次 WATANABE KELJI 野沢 隆寛 NOZAWA TAKAHIRO	委員	Members Committee 新井 茂 ARAI SHIGERU 川口 雄 KAWAGUCHI TAKESHI 佐藤 成美 SATO SHIGEMI 長澤 恵一 NAGASAWA KEIICHI 西村 一人 NISHIMURA KAZUTO	
監事	Auditor 小林 昭 KOBAYASHI AKIRA			
委員長	Committee Chairman 渋谷 良二 SHIBUYA RYOJI			



出場選手や大会のグレードを高めながら、地域と密接な連携を図り、国際ロードレースとして評価を高めるツアー・オブ・ジャパン!

ツアー・オブ・ジャパンは、昭和57年(1982)から平成7年(1995)まで14回開催していた「国際サイクルロードレース」を継承する国内最大規模の自転車レース。平成8年(1996)、UCIにステージレースとして公認されたことを機に、その名称を「ツアー・オブ・ジャパン」に変更し、第1回ツアー・オブ・ジャパンとして開催いたしました。昨年、平成25年(2013)の第16回大会より、レースクラスが<2.1>大会となり、UCIプロチームや世界トップレベルで活躍する強豪選手が参戦、ハイレベルな戦いとなりました。また、日本国内で行われるロードレースとしては、都府県をまたぐ唯一のステージレースとして、日本版の「ツール・ド・フランス」とも呼ばれています。選手たちは、全走行距離、581.85kmを走破し、栄え

ある勝利を勝ち取ります。

彼らの走りを目の当たりに観戦する観客は、本年全ステージを通じ278,200人にのぼり、BSフジでの総集編放送(6月15日)や海外メディア報道など、世界からも注目される日本最高峰のステージレースとなってきています。

レースだけでなく、各開催地では出場選手たちが地元の小学校や地域コミュニティ施設などで、ロードレースの観戦のしかたや安全に自転車に乗る方法などのセミナーやワークショップなど、ロードレース・自転車を通じて、地域との連携や文化交流も盛んに行われて、より身近な大会として親しまれています。次回大会も、地域密着型レースとしての存在価値をさらに高めていきたいと考えております。



Team List・チームリスト

ランプレ・メリダ イタリア
UCI Pro Team



No.	Name / 選手名
1	POZZATO Filippo / フィリッポ・ポッツァート
2	BONIFAZIO Niccolo / ニッコロ・ボニファジオ
3	DODI Luca / ルカ・ドディ
4	PALINI Andrea Francesco / アンドレア・パリーニ
5	CONTI Valerio / ヴァレリオ・コンティ
6	WACKERMANN Luca / ルカ・ワッケルマン

アヴァンティレーシングチーム オーストラリア
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
21	FETCH Luke / ルーク・フェッチ
22	BECKINSALE Jack / ジャック・ベッキンセール
23	DAVIS Sam / サム・デイヴィス
24	GUNMAN Taylor / テイラー・ガンマン
25	JONES Brenton / ブレントン・ジョーンズ
26	CLARK Matthew / マシュー・クラーク

タブリーズ ベトロケミカル チーム イラン
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
41	MIZBANI IRANAGH Ghader / ガーデル・ミズバニ・イラナグ
42	POURSEYEDIGOLAKHOUR Mirsamad / ミルサマ・ボルセイェディゴラコール
43	KOLAHDOZHAGH Amir / アミール・コラドゥーズハグ
44	SOHRABI Mehdi / メヘディ・ソフラビ
45	VAHID Ghaffari / ガファリ・ヴァヒド
46	KHORRAMI Karim / カリム・ホーラミ

OCBC シンガポール コンチネンタルサイクリングチーム シンガポール
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
61	LOW Ji Wen / ジーウェン・ロウ
62	RABOU Thomas / トマス・ラボウ
63	SHEPPARD Eric / エリック・シェパード
64	YEUNG Ying Hon / インホン・ヤング
65	BAYLY Cameron / キャメロン・ベイリー
66	JANG Chanjae / チャンジェ・ジャン

ドラバック プロフェッショナル サイクリング オーストラリア
UCI Pro-Continental Team



No.	Name / 選手名
11	CLARKE William / ウィリアム・クラーク
12	CRAWFORD Jai / ジャイ・クロフォード
13	KERBY Jordan / ジョーダン・ケルビー
14	PHELAN Adam / アダム・フェラン
15	NORRIS Lachlan / ラクラン・ノリス
16	WIPPERT Wouter / ワウテル・ウィッパート

ラファコンドル JLT イギリス
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
31	GRIVELL MELLOR Luke / ルーク・グリヴェル・メラー
32	WHITEHOUSE Daniel / ダニエル・ホワイトハウス
33	HANDLEY Richard / リチャード・ハンドリー
34	CARTHY Hugh / ヒュー・カーシー
35	MOSES Tom / トム・モーゼス
36	LAVERACK Edward / エドワード・レイヴラック

HKSI プロサイクリングチーム 香港
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
51	MOW Ching Yin / チンイン・モウ・繆正賢
52	LAU Kwong / クォン・ラウ・劉廣
53	KO Siu Wai / スーウェイ・コー・高肇蔚
54	HO Burr / バー・ホー・何伯爾
55	CHAN Chun Hing / チュンヒン・チャン・陳振興
-	-

ブリヂストン アンカー サイクリングチーム 日本
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
71	MONIER Damien / ダミアン・モニエ
72	LEBAS Thomas / トマ・ルバ
73	SHIMIZU Miyataka / 清水 都貴
74	UCHIMA Kohei / 内間 康平
75	HATSUYAMA Sho / 初山 翔
76	ITAMI Kenji / 伊丹 健治

愛三工業レーシングチーム 日本
UCI Continental Team



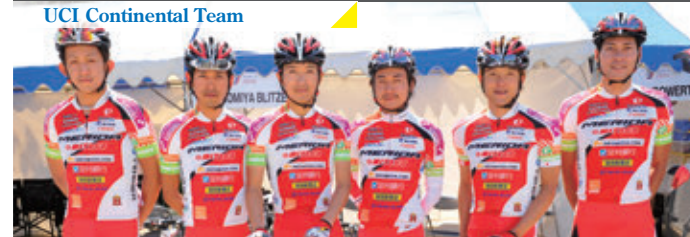
No.	Name / 選手名
81	NISHITANI Taiji / 西谷 泰治
82	NAKAJIMA Yasuharu / 中島 康晴
83	HIRATSUKA Yoshimitsu / 平塚 吉光
84	HAYAKAWA Tomohiro / 早川 朋宏
85	NAKANE Hideto / 中根 英登
86	AYABE Takeaki / 綾部 勇成

ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO 日本
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
101	MIYAZAWA Takashi / 宮澤 崇史
102	BISOLTI Alessandro / アレッサンドロ・ビソルティ
103	BOLE Grega / グレガ・ボーレ
104	DE NEGRI Pierpaolo / ピエールパオロ・デネグリ
105	MALAGUTI Alessandro / アレッサンドロ・マラグーティ
106	SMIT Willem / ウィリアム・シミット

宇都宮ブリツェン 日本
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
121	SUZUKI Shinri / 鈴木 真理
122	MASUDA Nariyuki / 増田 成幸
123	SUZUKI Yuzuru / 鈴木 譲
124	ABE Takayuki / 阿部 嵩之
125	OKUBO Jin / 大久保 陣
126	HORI Takaaki / 堀 孝明

C プロジェクト 日本
UCI Continental Team



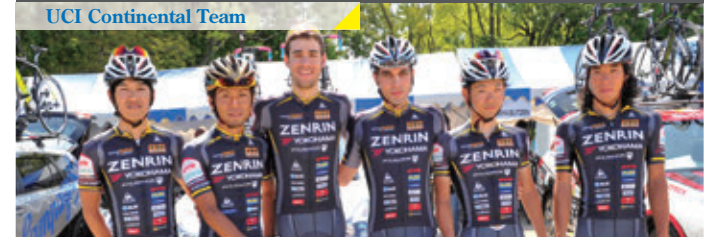
No.	Name / 選手名
141	OBA Masatoshi / 大場 政登志
142	YAMAMOTO Kazuhiro / 山本 和弘
143	AGUILAR VEGA Jose / ホセ・アギラヴェガ
144	OMURA Yutaka / 大村 寛
145	YONAI Soma / 米内 蒼馬
146	FUJIOKA Katsuma / 藤岡 克磨

シマノレーシングチーム 日本
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
91	HATANAKA Yusuke / 畑中 勇介
92	YOSHIDA Hayato / 吉田 隼人
93	IRIBE Shotaro / 入部 正太郎
94	NONAKA Ryoma / 野中 竜馬
95	KIMURA Keisuke / 木村 圭佑
96	YOKOYAMA Kota / 横山 航太

チーム右京 日本
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
111	TORIBIO ALCOLEA Jose Vicente / ホセ・ヴィセンテ・トリビオ
112	GARCIA AMBROA Ricardo / リカルド・ガルシア
113	DOI Yukihiro / 土井 雪広
114	YAMAMOTO Shun / 山本 隼
115	SUMIYOSHI Kota / 住吉 宏太
116	HIRAI Eiichi / 平井 栄一

マトリックス パワータグ 日本
UCI Continental Team



No.	Name / 選手名
131	PRADES REVERTE Benjamin / ベンジャミン・ブラド
132	MORA VERDI Sebastian / セバスチャン・モラ
133	FERNANDEZ CASASOLA Airan / アイラン・フェルナンデス
134	YASUHARA Daiki / 安原 大貴
135	WADA Chikara / 和田 力
-	-

日本ナショナルチーム 日本
National Team



No.	Name / 選手名
151	KUROEDA Saya / 黒枝 咲哉
152	OMOTE Toshiki / 面手 利輝
153	SHIMIZU Ohko / 清水 太己
154	HIROSE Itsuki / 広瀬 樹
155	UCHINO Naoya / 内野 直也
156	OKA Atsushi / 岡 篤志

1st stage SAKAI

堺 Sakai stage

ステージ

5/18(日) 13:35 START

大仙公園周回コース<大阪府堺市>
走行距離:2.65km (個人タイムトライアル)

天 候

晴れ

気 温

25℃ (13:35スタート時/スタート地点)

観戦者数

70,000人

クラークが新記録で勝利 ポッツァート3位

第1ステージは大阪府堺市での2.65km個人タイムトライアル。仁徳天皇陵に隣接する大仙公園の周回コースは、高低差はほとんどないが、道幅が狭く鋭角コーナーもあるため、スピードとバイクコントロールが求められる。

各選手がスタート台から、30秒ごとにスタート。レース中盤、オーストラリアのU23タイムトライアルチャンピオン、ジョーダン・ケルビー（ドラパック プロフェッショナル サイクリング）が3分17秒01という好タイムをマーク。暫定トップに立った。

各チームが1人ずつ走り、いよいよ6人目の最終グループがスタート。ここで輝きを放ったのがドラパックのウィリアム・クラークだった。力強い走りでゴールラインを通過すると、時計は3分14秒09でストップ。堂々たるコースレコードで首位に躍り出た。

最終走者はミラノ〜サンレモ優勝や、ツール・ド・フランスのステージ優勝の実績をもつフィリッポ・ポッツァート（ランプレ・メリダ）。3分19秒12の好タイムをマークして3位に入った。日本勢では昨年同ステージ勝利の西谷泰治（愛三工業レーシングチーム）に期待が集まったが、日本人最高タイムながら7位に終わった。

クラークは2年前に出場した際にも堺ステージで勝利しており、「コースは自分に合っている。タイムトライアルは得意だから勝ちを狙っていた」とコメント。個人総合でもまず首位に立ち、グリーンジャージに最初に袖を通した。



個人総合時間賞	 ウィリアム・クラーク	ドラパック プロフェッショナル サイクリング
個人総合ポイント賞	 ウィリアム・クラーク	ドラパック プロフェッショナル サイクリング
新人賞	 ジョーダン・ケルビー	ドラパック プロフェッショナル サイクリング
区間賞 1位	ウィリアム・クラーク	ドラパック プロフェッショナル サイクリング



スターター：島野喜三（株）シマノ最高顧問

ウィリアム・クラーク プロフィール

<ドラパック プロフェッショナル サイクリング>

1985年5月生まれ。オーストラリア出身。

2011年レオパード・トレック（UCI PRO TEAM＝以下PT）、2012年チャンピオンシステム プロサイクリングチーム、2013年アルゴス・シマノ（PT）を経て、今年よりドラパック プロフェッショナル サイクリングに所属。これまでに、2012年のTour Down Under 第2ステージ優勝、今年のオーストラリア国内選手権ロード（タイムトライアル＝TT）5位などを獲得。2012年のTour of Japan 堺ステージでも優勝を果たし、堺ステージ2勝目。

ウィリアム・クラーク選手コメント

堺ステージは楽しかった。コーナリングが大変だったが、チームメイトといいレースができた。これからアップダウンのあるハードなステージが増え大変だけど、クライマーもいるのでチームとしてしっかり回せると思う。2回目の来日で、堺ステージは世界でも大好きなステージ。たくさんの皆さんが応援してくれたことに感謝します。

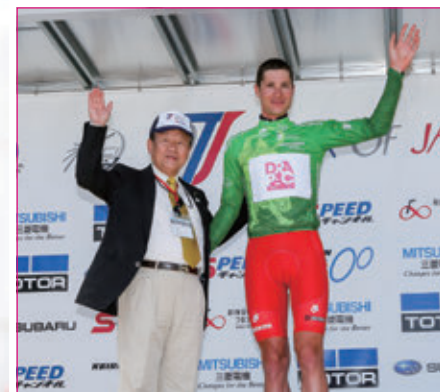
堺ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ウィリアム・クラーク	ドラパック プロフェッショナル サイクリング	3'14".09*
2	ジョーダン・ケルビー	ドラパック プロフェッショナル サイクリング	+ 2".92
3	フィリッポ・ポッツァート	ランプレ・メリダ	+ 5".03
4	ジャック・ベッキンセール	アヴァンティレーシングチーム	+ 5".04
5	ブレントン・ジョーンズ	アヴァンティレーシングチーム	+ 5".29

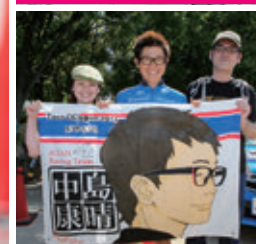
*コースレコード

堺ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ウィリアム・クラーク	ドラパック プロフェッショナル サイクリング	3'14"
2	ジョーダン・ケルビー	ドラパック プロフェッショナル サイクリング	+ 0'03"
3	フィリッポ・ポッツァート	ランプレ・メリダ	+ 0'05"
4	ジャック・ベッキンセール	アヴァンティレーシングチーム	+ 0'05"
5	ブレントン・ジョーンズ	アヴァンティレーシングチーム	+ 0'05"



表彰式プレゼンター：斧 隆夫 堺ステージ実行委員長



2nd stage MINO

美濃Mino Stage

ステージ

5/20(火) 9:15 START

旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース<岐阜県美濃市>
走行距離:160.7km <(パレード4.0km)+11.6km+(21.3km×7周)>

天候

晴れ

気温

17.9℃(9:15スタート時/スタート地点)

観戦者数

23,000人

ウィットパートがスプリント勝利

ドラパック連勝

移動日を挟んで第2ステージは、最初の本格的なロードレース。岐阜県美濃市の「うだつの上がる町並み」を出発し、21.3kmの周回コースを7周半する160.7kmで争われる。平坦基調のスピードコースで、スプリンター向けのステージだ。

レースは序盤に抜け出した阿部嵩之（宇都宮ブリッツェン）、アイラン・フェルナンデス（マトリックス パワータグ）が終盤まで先頭をキープ。阿部が中間スプリント、フェルナンデスが山岳ポイントをそれぞれトップで通過する。

メイン集団は終始リーダーチームのドラパックがコントロールし、途中からスプリント勝利を狙うランプレ・メリダも先頭交替に加わった。残り3周を切ると集団はペースアップ。ラスト1周を前に逃げの2人はメイン集団に飲み込まれた。

ゴールスプリント勝負はランプレ・メリダが主導権を握り、エーススプリンターのニコロ・ボニファジオを先頭で発射。しかし脇から並びかけたワウテル・ウィットパート（ドラパック プロフェッショナル サイクリング）が、ボニファジオをかわしてガッツポーズ。ドラパック勢が塚に続き2連勝を飾った。

日本勢は西谷泰治（愛三工業レーシングチーム）の5位が最高。西谷は「収穫はUCIポイントを獲れたことだけ」と悔しさをにじませた。

大集団ゴールでタイム差が付かなかったことから、個人総合トップは変わらずドラパックのウィリアム・クラークがキープした。

個人総合時間賞	 ウィリアム・クラーク	ドラパック プロフェッショナル サイクリング
個人総合ポイント賞	 ワウテル・ウィットパート	ドラパック プロフェッショナル サイクリング
個人総合山岳賞	 アイラン・フェルナン	マトリックス パワータグ
新人賞	 ワウテル・ウィットパート	ドラパック プロフェッショナル サイクリング
区間賞 1位	ワウテル・ウィットパート	ドラパック プロフェッショナル サイクリング



表彰式プレゼンター：武藤鉄弘 美濃市長

ワウテル・ウィットパート プロフィール

<ドラパック プロフェッショナル サイクリング>
1990年8月生まれ。オランダ出身。
2012年ロット・ベリソル（PT）、2013年チーム3Mを経て、今年よりドラパック プロフェッショナル サイクリングに所属。2012年のLe Triptyque des Monts et Châteaux（ベルギー）第5ステージ優勝、2013年のDutch Food Valley Classic（オランダ）第4位。今年は、ニュージーランド・サイクル・クラシック第2・第4ステージ、ツール・ド・台湾第3ステージで優勝。

ワウテル・ウィットパート選手コメント

最後がものすごくきつかったが、チームメイトが僕の前を走ってくれて最後残り1キロのところで自分をリリースしてくれていい走りができた。本当にチームメイトに感謝している。

美濃ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ワウテル・ウィットパート	ドラパック プロフェッショナル サイクリング	3:47'36"
2	ニコロ・ボニファジオ	ランプレ・メリダ	+ 00'00"
3	ブレントン・ジョーンズ	アヴァンティレーシングチーム	+ 00'00"
4	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	+ 00'00"
5	西谷泰治	愛三工業レーシングチーム	+ 00'00"

美濃ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ウィリアム・クラーク	ドラパック プロフェッショナル サイクリング	3:50'50"
2	ワウテル・ウィットパート	ドラパック プロフェッショナル サイクリング	+ 0'01"
3	ブレントン・ジョーンズ	アヴァンティレーシングチーム	+ 0'01"
4	フィリッポ・ボッツァート	ランプレ・メリダ	+ 0'03"
5	ジャック・ベッキンセル	アヴァンティレーシングチーム	+ 0'05"



開催地代表挨拶：
古田肇 岐阜県知事



表彰式プレゼンター：
土本恭正 美濃ステージ実行委員長



中野浩一氏



2nd stage MINAMISHINSHU

南信州

Minamishinshu Stage

ステージ

5/21(水) 8:45 START

飯田駅→下久堅周回コース→松尾総合運動場前
走行距離:148.0km <(パレード7.3km)+(12.2km×12周)+1.6km>

天 候 雨 気 温 16.1℃(8:45スタート時/スタート地点) 観戦者数 35,000人

雨の南信州 デネグリが2年連続ステージ勝利

第3ステージは長野県飯田市を中心に行なわれる激しいアップダウンコース。例年ここからが本格的な総合争いのスタートだ。飯田駅前をパレードスタートし、12.2kmの周回コースを12周してからゴールに向かう、148.0kmのレースだ。

朝から雨が降る中、飯田駅前をパレードスタート。レースは序盤に形成された6人の逃げグループに対し、中盤にメイン集団からラファコンドールJLTの4選手が揃ってアタック。集団から選手を引き連れる形で先頭に追い付き、ここでメイン集団が再構成され、有力選手30人ほどの人数に絞られた。

ラファは9周目さらにヒュー・カーシーが単独アタック。集団からこれを追えたのは、外国人選手がわずかに3人だった。カーシーは残り2周を前に捕えられ、4人となった先頭からは、力尽きたカーシーともう一人が脱落。先頭はピエールパオロ・デネグリ（ヴィーニファンティーニ・NIPPO）、トマ・ルバ（ブリヂストン アンカー サイクリングチーム）の2人となった。

2人の勝負はゴールスプリントに持ち込まれ、これを落ち着いて制したデネグリがステージ優勝を飾った。デネグリは前年の南信州ステージも制しており、同ステージ2連覇となった。

厳しいレースに集団がバラバラとなったことで、デネグリが個人総合でもトップに立ち、リーダージャージを獲得。日本人トップは清水都貴（ブリヂストン アンカー サイクリングチーム）がステージ7位に入り、総合でも8位につけた。



個人総合時間賞	 ピエールパオロ・デネグリ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO
個人総合ポイント賞	 グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO
個人総合山岳賞	 トマス・ラボウ	OCBCシンガポール コンチネンタルサイクリングチーム
新人賞	 ジャック・ベッキンセル	アヴァンティ レーシングチーム
区間賞 1位	ピエールパオロ・デネグリ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO



表彰式プレゼンター：牧野光朗 飯田市長

ピエールパオロ・デネグリ プロフィール

<ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO>
1986年6月生まれ。イタリア出身。2010年よりヴィーニ ファンティーニ セッレ イタリア、今年はチーム名が変わりヴィーニ ファンティーニ・NIPPOから出場。これまでにツアー・オブ・オマーン、ジロ・デ・イタリアなど、ヨーロッパ、アジア圏のレースで活躍。2012年にトロフェオ・マッテオッティ（イタリア）で優勝を果たすほか、2013年グランプリ・ピノ・チェラミ（ベルギー）でも上位入賞。南信州ステージで昨年に続き、2連覇を飾る。

ピエールパオロ・デネグリ選手コメント

昨年もタフなレースでしたが、今年は雨でより難しいレースになりました。他の選手もかなりつらかったようで、終盤では2人（トマ・ルバ／ブリヂストン アンカー サイクリングチーム）だけ残るような展開でした。日本のレースで活躍することにこだわりを持ってやっているの、チームメイトと良い結果を求めたい。

南信州ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ピエールパオロ・デネグリ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	3:55'16"
2	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+ 0'02"
3	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	+ 1'13"
4	ジャック・ベッキンセル	アヴァンティ レーシングチーム	+ 1'55"
5	ホセ ヴィセンテ・トリビオ	チーム右京	+ 1'55"

南信州ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ピエールパオロ・デネグリ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	7:46'11"
2	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+ 0'12"
3	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	+ 1'12"
4	ジャック・ベッキンセル	アヴァンティ レーシングチーム	+ 1'55"
5	ホセ ヴィセンテ・トリビオ	チーム右京	+ 2'01"



開催地代表挨拶：：牧野光朗 飯田市長



4th stage FUJISAN

富士山

Fujisan Stage

ステージ

5/23(金) 10:00 START

須走商店街→ふじあざみライン入口→富士山須走口5合目<静岡県駿東郡小山町>

走行距離:11.4km <(パレード2.9km)+11.4km/ヒルクライム標高差約1,200m>

天 候

曇り

気 温

16.5℃(10:00スタート時/スタート地点)

観戦者数

5,700人

ポルセイエ富士山新記録 最強イラン勢が飛翔

第4ステージは最大の山場、富士山の須走5合目までを一気に駆け上がる11.4km。距離は短いが平均勾配10%、最大勾配22%に達し、本場ヨーロッパの超級山岳にも引けを取らない難易度のヒルクライムだ。

静岡県小山町の須走商店街をパレードした後、ふじあざみラインに入りレーススタート。序盤からアジアツアーのランキング1位、イランのタブリーズペトロケミカルが大暴れを見せた。

序盤の直線区間でまずガーデル・ミズバニ、カリム・ホーラミが2人でアタック。その後も集団から次々タブリーズ勢が抜け出し、単独先頭になっていたミズバニに中盤追いついたのは、ミルサマ・ポルセイエディゴラコールだった。ポルセイエはミズバニを抜いて先頭に立ち、そのまま後続を寄せ付けず38分51秒のコースレコードで優勝した。

「富士山で走るのが夢だった。試走して素晴らしいコースだったので、早く今日のレースを走りたくてドキドキしていた」と話すポルセイエは、昨年からチンハイレイク（中国）、ランカウィ（マレーシア）と、アジアの超級レースを続けて制している最強選手。雨が苦手な南信州ステージでは8位に沈んでいたが、この日は得意の上りで圧倒的な実力を見せた。

総合ではステージ6位に入ったグレガ・ボーレ（ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO）がわずかにポルセイエを上回り首位に立った。日本人では清水都貴（ブリヂストン アンカー サイクリングチーム）がステージ15位に入り、総合でも9位につけている。

個人総合時間賞	 グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO
個人総合ポイント賞	 グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO
個人総合山岳賞	 トマス・ラボウ	OCBCシンガポール コンチネンタルサイクリングチーム
新人賞	 アミール・コラドゥーズハグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム
区間賞 1位	ミルサマ・ポルセイエディゴラコール タブリーズ ペトロケミカル チーム	



表彰式プレゼンター：櫻井佳宏 小山町商工会副会長

ミルサマ・ポルセイエディゴラコール プロフィール

<タブリーズ ペトロケミカル チーム>

1985年10月生まれ。イラン出身。

2009年からタブリーズ ペトロケミカル チームに所属。2011年International Presidency Tour（イラン）総合優勝、Tour of Singkarak（イラン）総合第3位、2013年Banyuwangi Tour de Ijen（インドネシア）、Tour of Qinghai Lake（中国）での 総合優勝。今年は、ツアー・オブ・ジャパンだけでなく、Tour de Langkawi 総合優勝を果たす。本大会終了後、UCIアジアツアー個人ランキング第1位。

ミルサマ・ポルセイエディゴラコール選手 コメント

素晴らしいレースでした。富士山で走るのは夢だった。日本の方々に応援を頂きありがとうございます。素晴らしい選手たちと走れたことは、とてもうれしいです。来年はこれよりももっといいタイムを出したいです。

富士山ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ミルサマ・ポルセイエディゴラコール	タブリーズ ペトロケミカル チーム	0:38'51"※
2	ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT	+ 1'19"
3	ダミアン・モニエ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+ 1'26"
4	アミール・コラドゥーズハグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	+ 1'37"
5	ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	+ 1'53"

※コースレコード

富士山ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	8:28'27"
2	ミルサマ・ポルセイエディゴラコール	タブリーズ ペトロケミカル チーム	+ 0'17"
3	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+ 0'22"
4	ホセ ヴィセンテ・トリビオ	チーム右京	+ 1'40"
5	ピエールパオロ・デネグリ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	+ 1'51"



スターター：込山正秀 小山町長



5th stage Izu

伊豆 IZU Stage

ステージ

5/24(土) 9:30 START

日本サイクルスポーツセンター周回コース<静岡県伊豆市>
走行距離:146.4km <12.2km×12周>

天候

晴れ

気温

20℃(9:30スタート時/スタート地点)

観戦者数

18,500人

ミズバニがポルセイェ連れ逃げ切り 総合逆転

第5ステージは静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンターの12.2km特設コースを12周する、146.4kmのレース。厳しいアップダウンコースで、最終第6ステージは平坦であることから、総合成績を逆転するラストチャンスだ。

レースは1周目から、総合トップから17秒差の2位につけるミルサマ・ポルセイェディゴラコール（タブリーズベトロケミカル）が、僚友のガーデル・ミズバニとともにアタック。清水都貴（ブリヂストン アンカー サイクリングチーム）、ヒュー・カーシー（ラファコンドールJLT）と4人の逃げ集団を形成。中盤に清水が遅れた後も3人で逃げ続けた。

メイン集団はリーダーチームのヴィーニファンティーニ・NIPPOがコントロールするが、逃げの勢いはそれを振り切るスピード。レース中盤でヴィーニファンティーニ・NIPPOのアシスト陣は崩壊。集団も大幅に人数を減らし、逃げ集団を捕えることが困難になった。

逃げ切った3人の勝負は、イランの大ベテラン、ミズバニが制してステージ優勝。3位に入ったポルセイェが総合逆転を決め、ガッツポーズでゴールした。

レースが予想を上回るハイペースで展開したため、集団から脱落する選手が大量に発生。出走した85選手のうち、スプリンター、スピードマンを中心に、44人もの選手がタイムアウトで失格となった。昨年ステージ2勝の西谷泰治（愛三工業レーシングチーム）や、ワールドツアーでの勝利経験もあるフィリッポ・ポッツァート（ランプレ・メリタ）も、この日でレースを去った。



個人総合時間賞		ミルサマ・ポルセイェディゴラコール	タブリーズ ベトロケミカル チーム
個人総合ポイント賞		グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO
個人総合山岳賞		ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT
新人賞		ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT
区間賞 1位		ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ベトロケミカル チーム



表彰式プレゼンター：菊地豊 伊豆市長

ガーデル・ミズバニ・イラナグ プロフィール
<タブリーズ ベトロケミカル チーム>
1975年12月生まれ。イラン出身。
2009年からタブリーズ ベトロケミカル チームに所属。これまでにTour of Singkarak（インドネシア）で2009年、2010年、2013年と3度の総合優勝を飾るほか、International Azerbaijan Tour（イラン）でも2010年、2013年と2度総合優勝を果たす。2013年は、Tour of Borneo（シンガポール）、Tour of Iran（イラン）、Le Tour de Filipinas（フィリピン）で総合優勝。現イランロードチャンピオンでもある。

ガーデル・ミズバニ・イラナグ コメント
初めての日本のレースで、コースの情報などほとんどなかった。南信州ステージのタイムが悪かったのも、そこからは頑張らなければならなかった。たくさんの応援をして頂けたことに感謝しています。

伊豆ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ベトロケミカル チーム	4:14'13"
2	ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT	+ 0'03"
3	ミルサマ・ポルセイェディゴラコール	タブリーズ ベトロケミカル チーム	+ 0'03"
4	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	+ 2'04"
5	キャメロン・ベイリー	OCBC シンガポール コンチネンタルサイクリングチーム	+ 2'08"

伊豆ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ミルサマ・ポルセイェディゴラコール	タブリーズ ベトロケミカル チーム	12:42'47"
2	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	+ 1'57"
3	ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ベトロケミカル チーム	+ 3'48"
4	ホセ ヴィセンテ・トリビオ	チーム右京	+ 4'19"
5	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+ 5'13"



スターター：内田政雄
NPO法人伊豆市体育協会会長



2nd stage TOKYO

東京Tokyo Stage

ステージ

5/25(日) 11:00 START

日比谷シティ前→大井埠頭周回コース<東京都>
走行距離:112.7km <(パレード1.2km)+14.7km+(7.0km×14周)>

天 候

晴れ

気 温

24℃(11:00スタート時/スタート地点)

観戦者数 126,000人

ボニファジオがスプリントを制して面目躍如

最終第6ステージは、東京都心の日比谷シティ前をスタートし、大井埠頭の7kmの周回コースを14周する112.7kmのスピードコース。前日の伊豆ステージで大量の失格者が出たため、スタートラインに並んだのはわずか41人の選手となった。

レースはスタート直後から激しいアタック合戦となり、何度も逃げができては吸収されるという展開。周回コースに入ってからトム・モーゼス（ラファ コンドール JLT）とインホン・ヤング（OCBCシンガポール コンチネンタルサイクリングチーム）が抜け出した。途中モーゼスが下がりヤングが単独先頭となったところに、ホセヴィセンテ・トリビオ（チーム右京）とダミアン・モニエ（ブリヂストン アンカー サイクリングチーム）が合流した。

メイン集団はリーダーチームのタブリーズペトロケミカルがコントロール。残り5周になったところで、今大会まだ未勝利のランプレ・メリダがメイン集団での追走に加わり、逃げとの差は減少に転じた。

残り1周でメイン集団は逃げの3人を飲み込み、勝負は集団ゴールスプリントへ。これを制したのは、ランプレ・メリダのエーススプリンター、ニッコロ・ボニファジオ。昨年、今年とTOJに参加しながら勝ち星を挙げられていなかったランプレ・メリダは、最後に面目躍如の勝利となった。

集団ゴールで総合トップは安泰。ミルサマ・ポルセイェディゴラコール（タブリーズ ペトロケミカル チーム）が、初出場での総合優勝をもぎ取った。日本人は吉田隼人（シマノレーシングチーム）のステージ7位が最高。総合では増田成幸（宇都宮ブリッウェン）が10位と唯一トップ10入りした。

個人総合時間賞		ミルサマ・ポルセイェディゴラコール	タブリーズ ペトロケミカル チーム
個人総合ポイント賞		グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO
個人総合山岳賞		ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT
新人賞		ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT
区間賞 1位		ニッコロ・ボニファジオ	ランプレ・メリダ



左：岩城光英 参議院議員／自転車活用推進議員連盟事務局長
右：橋本聖子 参議院議員/公益財団法人日本オリンピック委員会 理事

ニッコロ・ボニファジオ プロフィール

<ランプレ・メリダ>

1993年10月生まれ。イタリア出身。

2013年からランプレ・メリダに所属。これまでにヨーロッパでのワンデー・レースを中心に、チーム内で活躍。今年3月よりベルギー、トルコなどでのステージレースに参戦。特にPresidential Cycling Tour of Turkey（トルコ）では、いくつかのステージで上位に絡む闘いをしながら、優勝を逃す。ツアー・オブ・ジャパンで念願のプロとしてステージ優勝を果たす。

ニッコロ・ボニファジオ コメント

国際レースでプロとして初めて勝利できた。チームのみんなに感謝したい。

東京ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ニッコロ・ボニファジオ	ランプレ・メリダ	2:22'14"
2	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	+ 0'00"
3	ウィリアム・クラーク	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	+ 0'00"
4	ジャック・ベッキンセル	アヴァンティレーシングチーム	+ 0'00"
5	アンドレア・バリニ	ランプレ・メリダ	+ 0'00"

東京ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ミルサマ・ポルセイェディゴラコール	タブリーズ ペトロケミカル チーム	15:05'01"
2	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	+1'51"
3	ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	+3'48"
4	ホセ ヴィセンテ・トリビオ	チーム右京	+4'15"
5	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+5'13"



左から
岡田貴浩 スバルレーシングチーム
山田玲奈 グッドチャリズム宣言
プロジェクト、タレント
小泉昭男 参議院議員／自転車活用推進議員連盟 自転車活用プロジェクトチーム座長
岩城光英 参議院議員／自転車活用推進議員連盟事務局長
高砂よういち 大人の自転車部
山口文知 東京サイクリング協会



スターター：橋本聖子
参議院議員/公益財団法人日本オリンピック委員会 理事



Result・リザルト

ポルセイェ初優勝!!

個人総合時間賞 ミルサマ・ポルセイェディゴラコール コメント

今日のレースは、簡単に見えたが、ジャージを守るために本当に疲れたレース展開だった。初めて来た日本は、本当に楽しかったです。応援してくれた皆さん、ありがとう。アジアは強いことを世界にアピールするために共に歩んでいきたいです。

● 個人総合時間 General Individual Time Classification

順位	選手名	所属	タイム	タイム差
1	ミルサマ・ポルセイェディゴラコール	タブリーズ ペトロケミカル チーム	15:05'01"	0'00"
2	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO	15:06'52"	1'51"
3	ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	15:08'49"	3'48"
4	ホセ ヴィセンテ・トリビオ	Team UKYO	15:09'16"	4'15"
5	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	15:10'14"	5'13"
6	ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT	15:10'49"	5'48"
7	アミール・コラドゥーズハグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	15:10'55"	5'54"
8	キャメロン・ベイリー	OCBC シンガポール コンチネンタルサイクリングチーム	15:12'00"	6'59"
9	ベンジャミン・ブラド	マトリックス パワータグ	15:12'29"	7'28"
10	増田 成幸	宇都宮ブリッツェン	15:13'33"	8'32"
11	ジャック・ベッキンセール	アヴァンティレーシングチーム	15:13'36"	8'35"
12	ジャイ・クロフォード	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	15:15'01"	10'00"
13	リカルド・ガルシア	Team UKYO	15:17'00"	11'59"
14	土井 雪広	Team UKYO	15:18'04"	13'03"
15	トム・モーゼス	ラファ コンドール JLT	15:18'08"	13'07"
16	ヴァレリオ・コンティ	ランプレ・メリダ	15:19'14"	14'13"
17	リチャード・ハンドリー	ラファ コンドール JLT	15:20'16"	15'15"
18	エリック・シェパード	OCBC シンガポール コンチネンタルサイクリングチーム	15:22'47"	17'46"
19	早川 朋宏	愛三工業レーシングチーム	15:23'04"	18'03"
20	吉田 隼人	シマノレーシングチーム	15:25'29"	20'28"
21	アンドレア・パリーニ	ランプレ・メリダ	15:30'26"	25'25"

● 個人総合ポイント General Individual Points Classification

順位	選手名	所属	堺	美濃	南信州	富士山	伊豆	東京	総合ポイント
1	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO		14	16		14	20	64
2	ニコロ・ボニファジオ	ランプレ・メリダ		20	6			25	51
3	ジャック・ベッキンセール	アヴァンティレーシングチーム	7		14		4	14	41
4	ミルサマ・ポルセイェディゴラコール	タブリーズ ペトロケミカル チーム			8		31		39
5	ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム					31		31
6	トム・モーゼス	ラファ コンドール JLT		6	9		5	11	31
7	ウィリアム・クラーク	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	10				2	16	28
8	ホセ ヴィセンテ・トリビオ	Team UKYO			12		8	6	26
9	ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT			1		22		23
10	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム			20				20

● 個人総合山岳 General KOM Classification

順位	選手名	所属	堺	美濃	南信州	富士山	伊豆	東京	総合ポイント
1	ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT			7	12	13		32
2	ミルサマ・ポルセイェディゴラコール	タブリーズ ペトロケミカル チーム			3	15	9		27
3	アイラン・フェルナンデス	マトリックス パワータグ		15					15
4	ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム				6	8		14
5	ダミアン・モニエ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム				10	1		11
6	アミール・コラドゥーズハグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム					8		8
7	入部 正太郎	シマノレーシングチーム			8				8
8	阿部 嵩之	宇都宮ブリッツェン		8					8
9	グレガ・ボーレ	ヴィーニ ファンティーニ・NIPPO				5	1		6
10	エリック・シェパード	OCBC シンガポール コンチネンタルサイクリングチーム			6				6



● 新人賞 Young Individual Time Classification

順位	選手名	所属	タイム
1	ヒュー・カーシー	ラファ コンドール JLT	15:10'49"
2	アミール・コラドゥーズハグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	15:10'55"
3	キャメロン・ベイリー	OCBC シンガポール コンチネンタルサイクリングチーム	15:12'00"
4	ジャック・ベッキンセール	アヴァンティレーシングチーム	15:13'36"
5	トム・モーゼス	ラファ コンドール JLT	15:18'08"

● 団体総合時間 General Team Time Classification

順位	所属	総合時間
1	タブリーズ ペトロケミカル チーム	45:24'59"
2	Team UKYO	45:44'24"
3	ラファ コンドール JLT	45:46'07"
4	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	45:55'19"
5	ランプレ・メリダ	46:05'47"
6	OCBC シンガポール コンチネンタルサイクリングチーム	46:14'28"
7	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	46:22'21"
8	宇都宮ブリッツェン	46:26'47"
9	マトリックス パワータグ	46:37'58"
10	シマノレーシングチーム	46:43'19"



今中大介の総括

やはり世界は広い。
東京オリンピックが控えている中、
やることは一杯あると感じます。



今年のTOJはイランのタブリーズペトロケミカルが初参戦して、その強さに驚かされました。ランカウイやチンハイレイクといった超級レースを制しているアジアのトップ。その走りを身近に感じて、やはり世界は広いなと思いました。

これまでは南信州でだいたい2位以内に入った選手が総合で勝つというのが流れでしたが、今回優勝のポルセイェディゴラコール選手は、南信州を終えて総合7位のところからジャンプアップを果たし、その戦い方も、これまでの大会とは全く違っていました。

南信州ではラファの集団アタックもありました。一筋縄でいかないレースの中で、戦い方や力の差を含め、様々なものが見えてきた大会ではないかと思います。

本場欧州で鍛えた選手の一人、土井雪広選手（チーム右京）が今回印象的な走りを見せました。ホセ・ヴィセンテ・トリビオ選手のための献身的な走り、伊豆でも最後の2周で5分の差を詰める頑張りがありましたし、東京でも逃げにホセ選手を送り出す仕事をしました。

欧州で選手は毎回厳しいレースを、きつい思いをしながら年間に何十レース、多い選手は百以上走っています。

それは物凄く負荷の高いトレーニングをやっているようなもので、やはりそういう厳しい中で鍛えられていくのだと思います。

世界との実力差を埋めていくためには、日本も大きな仕掛けをしないといけないし、東京オリンピックが控えている中、やることは一杯あると感じます。その一つとしてTOJというのは、世界の舞台に向かうチャンスを与えてくれる、その最初の一步かあるいは数歩か、確実に貢献していると思います。

今回日本人では増田成幸選手（宇都宮ブリッツェン）が総合10位になりました。今後さらに上位を狙うためには、依然として富士山そして伊豆のステージが肝です。昨年と一昨年に活躍したジュリアン・アレドンド選手が今年ジロ・デ・イタリアで山岳トップになりましたが、そういうレベルでないと戦っていけない非常にハードルの高いレースです。

逆にTOJで総合トップを争うことができれば、世界の山岳トップで活躍できるということです。まだ日本にはそういう選手が生まれてきていませんが、これからに期待したいです。

Relations tool・広報ツール

5月は自転車月間

果てしなき頂きの先へ

17th TOUR OF JAPAN
2014.5/18 SUN - 25 SUN

5/18◎堺 5/26◎美濃 5/21◎南信州 5/23◎富士山 5/24◎伊豆 5/25◎東京

主催：自転車月間推進協議会
主幹：TOUR OF JAPAN 総務委員会（事務局：（一財）日本自転車連合協会）
競技主管：（公財）日本自転車競技連盟
後援：内閣府、経済産業省、国土交通省、消費者庁、東京都、大阪府、（公財）UKA、朝日新聞社、日本スポーツ新聞社
協力：堺市、岐阜県、美濃市、尾田観光協会、小山町（静岡県駿河郡）、伊豆市、（一財）日本サイクルスポーツセンター、東京地場産（株）

特別協賛：MITSUBISHI 三菱電機、SPEED、日本一之日株式会社、SUBARU

協賛：（株）Champion System Japan、THULE、ヤマハ発動機（株）、Rapha Japan、ダイドードリンコ（株）、（株）シマノ、（一財）日本自転車連合協会、アクアスポーツジャパン（株）、（株）ミヤタサイクル、パナソニックサイクルテック（株）、（株）マトリックス、岡三証券（株）、（株）パールイズミ、（株）センリン、（株）NIPPO、ブリヂストンサイクル（株）、東亜サンエス（株）、（株）インターマックス、（株）オーシーケーアブ、東京海上日動火災保険（株）、（株）津谷産業、英華総合リース（株）、みずほ銀行

第17回ツアー・オブ・ジャパン総集編 BSフジにて放送予定！ 2014年6月15日 13:00～13:55（実況中継あり）

ツアーオブジャパンHP <http://www.toj.co.jp>

↑大会ポスター



↑大会 HP <http://www.toj.co.jp/>



↑大会オフィシャルグッズ

果てしなき頂きの先へ

17th TOUR OF JAPAN
2014.5/18 SUN - 25 SUN

5/18◎堺 5/26◎美濃 5/21◎南信州 5/23◎富士山 5/24◎伊豆 5/25◎東京

主催：自転車月間推進協議会
主幹：TOUR OF JAPAN 総務委員会（事務局：（一財）日本自転車連合協会）
競技主管：（公財）日本自転車競技連盟
後援：内閣府、経済産業省、国土交通省、消費者庁、東京都、大阪府、（公財）UKA、朝日新聞社、日本スポーツ新聞社
協力：堺市、岐阜県、美濃市、尾田観光協会、小山町（静岡県駿河郡）、伊豆市、（一財）日本サイクルスポーツセンター、東京地場産（株）

特別協賛：MITSUBISHI 三菱電機、SPEED、日本一之日株式会社、SUBARU

協賛：（株）Champion System Japan、THULE、ヤマハ発動機（株）、Rapha Japan、ダイドードリンコ（株）、（株）シマノ、（一財）日本自転車連合協会、アクアスポーツジャパン（株）、（株）ミヤタサイクル、パナソニックサイクルテック（株）、（株）マトリックス、岡三証券（株）、（株）パールイズミ、（株）センリン、（株）NIPPO、ブリヂストンサイクル（株）、東亜サンエス（株）、（株）インターマックス、（株）オーシーケーアブ、東京海上日動火災保険（株）、（株）津谷産業、英華総合リース（株）、みずほ銀行

第17回ツアー・オブ・ジャパン総集編 BSフジにて放送予定！ 2014年6月15日 13:00～13:55（実況中継あり）

ツアーオブジャパンHP <http://www.toj.co.jp>

↑大会チラシ

果てしなき頂きの先へ

17th TOUR OF JAPAN
2014.5/18 SUN - 25 SUN

5/18◎堺 5/26◎美濃 5/21◎南信州 5/23◎富士山 5/24◎伊豆 5/25◎東京

主催：自転車月間推進協議会
主幹：TOUR OF JAPAN 総務委員会（事務局：（一財）日本自転車連合協会）
競技主管：（公財）日本自転車競技連盟
後援：内閣府、経済産業省、国土交通省、消費者庁、東京都、大阪府、（公財）UKA、朝日新聞社、日本スポーツ新聞社
協力：堺市、岐阜県、美濃市、尾田観光協会、小山町（静岡県駿河郡）、伊豆市、（一財）日本サイクルスポーツセンター、東京地場産（株）

特別協賛：MITSUBISHI 三菱電機、SPEED、日本一之日株式会社、SUBARU

協賛：（株）Champion System Japan、THULE、ヤマハ発動機（株）、Rapha Japan、ダイドードリンコ（株）、（株）シマノ、（一財）日本自転車連合協会、アクアスポーツジャパン（株）、（株）ミヤタサイクル、パナソニックサイクルテック（株）、（株）マトリックス、岡三証券（株）、（株）パールイズミ、（株）センリン、（株）NIPPO、ブリヂストンサイクル（株）、東亜サンエス（株）、（株）インターマックス、（株）オーシーケーアブ、東京海上日動火災保険（株）、（株）津谷産業、英華総合リース（株）、みずほ銀行

第17回ツアー・オブ・ジャパン総集編 BSフジにて放送予定！ 2014年6月15日 13:00～13:55（実況中継あり）

ツアーオブジャパンHP <http://www.toj.co.jp>

↑大会プログラム



↑Facebook



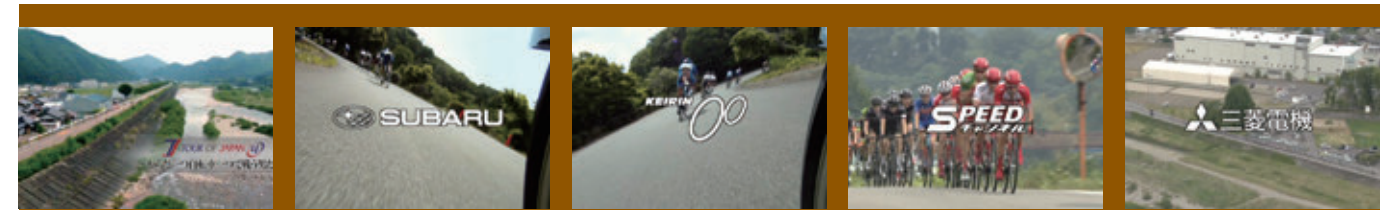
↑ツイッター



Ustream にて
ライブ配信を実施



Publicity TV・パブリシティ(テレビ)



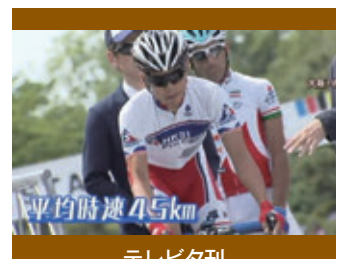
第17回ツアー・オブ・ジャパン総集編～からだ一つ自転車一つで戦う男たち～
2014年6月15日（日）14:00～14:55 BSフジ放映



すぽると！ フジテレビジョン
2014年3月24日（月）



すぽると！ フジテレビジョン
2014年5月18日（日）



テレビタリ
毎日放送
2014年5月18日（日）



Station！
岐阜放送
2014年5月20日（火）



SBC ニュースワイド
信越放送
2014年5月21日（水）



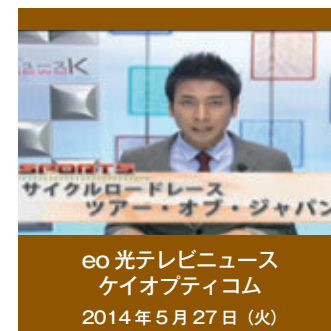
スーパーニュース
長野放送
2014年5月21日（水）



Station！
岐阜放送
2014年5月26日（月）



すぽると！ フジテレビジョン 2014年5月25日（日）



eo 光テレビニュース
ケイオプティコム
2014年5月27日（火）



スーパーニュース
東海テレビ放送
2014年6月2日（月）

17th Tour of Japan 関連 OA 番組一覧

放映日	番組名	放送波	内容	エリア
3月24日 月	すぽると！	フジテレビジョン	記者会見	全国
5月18日 日	すぽると！	フジテレビジョン	堺ステージ結果	全国
5月18日 日	テレビタリ	毎日放送	堺ステージ結果	地域
5月20日 火	Station！	岐阜放送	美濃ステージ結果	地域
5月21日 水	abn ステーション	長野朝日放送	南信州ステージ結果	地域
5月21日 水	スーパーニュース	長野放送	南信州ステージ結果	地域
5月21日 水	SBC ニュースワイド	信越放送	南信州ステージ結果	地域
5月21日 水	録画中継	飯田ケーブルテレビ	南信州ステージ中継	地域
5月22日 木	飯田ケーブルニュース	飯田ケーブルテレビ	南信州ステージ中継	地域
5月25日 日	すぽると！	フジテレビジョン	東京ステージ結果	全国
5月26日 月	Station！	岐阜放送	美濃ステージ結果	地域
5月26日 月	ニュース	NHK 宇都宮	東京ステージ結果	地域
5月27日 火	eo 光テレビニュース	ケイオプティコム	堺ステージ結果	地域
6月2日 月	スーパーニュース	東海テレビ放送	美濃ステージレポート	地域
6月15日 日	第17回ツアー・オブ・ジャパン総集編～からだ一つ自転車一つで戦う男たち～	BSフジ	全ステージハイライト	全国

Publicity Newspaper,WEB,Magazine

・パブリシティ(新聞・WEB・雑誌)

記者会見・事前告知



3月24日(月) サイクリスト
3月24日(月) シクロワイアード
3月25日(火) yahoo news
3月25日(火) 下野新聞

全ステージ



5月25日(日) 信濃毎日新聞



6月1日(日) 東京新聞 栃木版



バイク21 7月号



バイククラブ8月号



ファンライド8月号



サイクルスポーツ8月号

海外メディア



5月18日(日) cyclism'Actu



5月18日(日) reportciclismo



5月20日(火) La gazzetta dello Sport.it



5月21日(水) la republica



5月23日(金) mister-x



5月25日(日) wiewerflits



5月18日(日) diretta ciclismo



5月18日(日) voxsports



5月20日(火) lungoparma



5月21日(水) procyclingstats



5月24日(土) reportciclismo



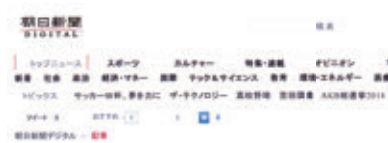
5月26日(月) asiaone sports

堺

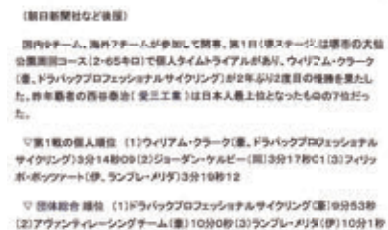
5月19日(月) 中日新聞



5月18日(日) サイクリスト



5月19日(月) 朝日新聞



5月19日(月) asahicom



5月19日(月) 日刊スポーツ



5月19日(月) 朝日新聞大版



5月20日(火) 南信州新聞

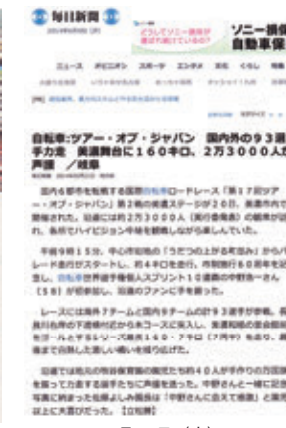
美濃



5月21日(水) 中日新聞岐阜版



5月21日(水) 読売新聞名古屋



5月21日(水) 毎日新聞デジタル



5月20日(火) 岐阜新聞夕刊



5月21日(水) しんぶん赤旗



5月21日(水) 岐阜新聞



5月21日(水) asahicom

南信州



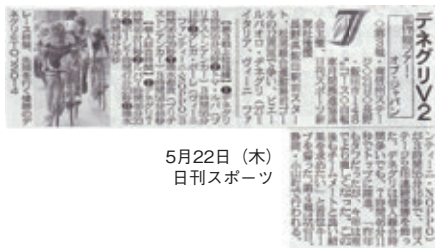
5月22日 (木)
cyclestyle



5月22日 (木) asahicom



5月22日 (木) 信濃毎日新聞



5月22日 (木)
日刊スポーツ



5月22日 (木) 南信州新聞

伊豆



5月24日 (土) サイクスポーツjp



5月24日 (土) 静岡新聞



5月24日 (土) nikkansport.com



5月25日 (日)
asahicom

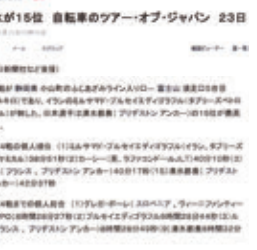


5月25日 (日) シクロワイアード



5月25日 (日)
Yamanashi Shimbun

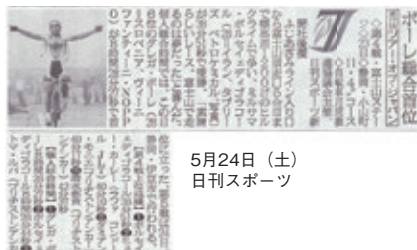
富士山



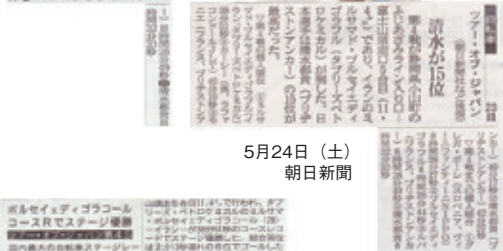
5月24日 (土) asahicom



5月24日 (土) シクロチャンネル



5月24日 (土)
日刊スポーツ



5月24日 (土)
朝日新聞



5月24日 (土) 東京中日スポーツ



5月24日 (土) 静岡新聞

東京



5月25日 (日)
サイクリスト



5月26日 (月)
asahicom



5月25日 (日) シクロワイアード



5月26日 (月) web Sportiva



5月26日 (月) 産経新聞栃木版



5月26日 (月)
日刊スポーツ



5月26日 (月)
朝日新聞



5月27日 (火) 山形新聞

Venue landscape, Sponsor merit

会場風景・スポンサーメリット他

自転車文化センターギャラリー特別展示



記者発表

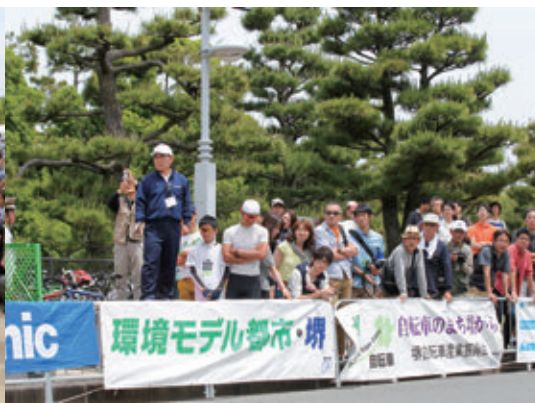


大会を盛り上げた白戸太朗氏、クリステル・チャリ氏



Sakai

fujisan



Mino

Izu



Minamishinshu

Tokyo









 17th TOUR OF JAPAN
<http://www.toj.co.jp>